

Nice Town
Good People

こんにちは
町会です



第12号

明石町会
明石町



勝どき西会
勝どき町



いきいき明るく楽しい町会！
みんなで広げる笑顔とコミュニティ



月島三丁部会
月島町



新町三丁目
東部町会



新町二丁目
越一町会

中洲会
中町



さあ、あなたも
町会・自治会活動に
参加しましょう！

地域の絆を深めて

わたしたちのまち中央区は、平成二十年九月に定住人口十一万人を突破し、中央区の将来像「生涯躍動へ都心再生——個性がいきるひとまち」の実現に向けて力強く歩んでいます。まちには子どもたちの声が響き、にぎわいと活気がみなぎっています。しかし一方では、町会・自治会に加入しない、または加入しても活動に参加したくないという方もおり、コミュニティ意識や連帯感の希薄化などの課題も生じています。

災害や不測の事態に備え、日ごろから隣近所がお互いに助け合えるような、良好な地域コミュニティがつくられていればとても心強いものです。

町会・自治会は、防災・防犯活動をはじめ、安全で安心して暮らせるまちづくりの推進や良好な地域コミュニティに寄与するイベントなどを催したりしています。

「こんにちは町会です」は、主に町会・自治会に未加入の方を対象に、町会・自治会の活動を少しでも知ってもらい、地域の絆を深めてもらうことを目的としています。

町会・自治会はわたしたちの一歩身近な地域の絆ですので、未加入の方も町会・自治会に加入し、積極的に参加されて活力あるコミュニティをつくっていきましょう！

明石町会
明町

みんなの心(胃袋)をつかむ、
明石町のおふくろの味

明石町町会 婦人部長 佐野恵子さん

明石町町会では年間を通してさまざまなイベントが催され、子どもから大人までたくさんの方が集まります。そうした中、町会が一丸となって楽しめるイベントに尽力されているのが婦人部長の佐野さんです。イベントでは婦人部が主に「食」を担当します。イベント当日には、鉄工所が併設されている佐野さんのご自宅に婦人部が集まり、鉄工所の作業場スペースにはところ狭しと大釜や大鍋が並べられます。この時だけは鉄工所が「明石町の厨房」へと変わり、たくさんの料理が作り出されます。この温かい手料理が、人々に笑顔と活力を与え、「手作りのおふくろの味」は明石町町会のイベントに欠かせない存在となっています。

もちろん、食べ物の用意は婦人部の活動の一例ですが、食にこだわる姿勢から明石町町会婦人部の名物イベントといえるでしょう。町会員ではない通りがかりの人も、ついつい匂いに誘われて集まってしまうというのにも納得の充実ぶりです。明石町町会では誰もが買えるようにと、町会員だけに配るチケット制は取り入れていません。「私たちにできることで皆さんが喜んで集まっていたらいいですね」と、佐野さんは集まってくれた人たちに、お米・餅米は一斗、豚汁は二百杯分など、朝早くから婦人部の皆さん総出で準備に取り掛かっています。

そんな明石町町会を支える「おふくろの味」を身近に味わえるイベントの一つが雪まつりです。築地のあかつき公園に友好都市である山形県東根市から雪が届けられ、公園は一夜にして銀世界になります。今年の二月の雪まつりもソリやミニスキーが楽しめるにあつて、多くの子どもたちが集まりました。東根市の芋煮汁や明石町のお汁粉をはじめ、出店したほかの団体のバラエティー豊かな味も、雪で冷えた子どもたちの体を温めてくれました。この雪まつりは今年で十五回



を迎えましたが、当初は山形から続々と雪を満載したトラックが公園に到着するものの、雪を降ろすシヨベルカーがなかなか到着しない、というアクシデントがありました。夜中にトラックがずらりと並んだままの状態を見て、佐野さんを筆頭に婦人部の皆さんは町内に雪降ろしの応援要請をかけます。「それはもう寒い上に時間が経ってしまったから手伝える人間を探すのが大変でした。」と、当時の苦労を振り返ります。声をかけ合って荷台車やバケツをかき集め、町内総出で雪降ろしを開始した頃には深夜零時を過ぎていたといいます。婦人部の皆さんは応援要請と同時に自宅に戻り、できる限りのおにぎりや温かいみそ汁を作り、東根市から来たトラック運転手の方々にもそれらをふるまったそうです。



後日、「東京の人は冷たいと思っていましたが、温かいおにぎりやみそ汁まで用意してくれて、中央区の人はとても温かいと感激しました。おふくろの味でとてもおいしかったです。」と、お礼の電話があつたそうです。「機会があれば私たちの町会のイベントにぜひ来て下さい。豪華とはいきませんが、心をこめた料理でおもてなします。」と、佐野さんは満面の笑みとともに、今日も町会活動を支えています。

町目会
丁部
浜三東

昔ながらのご近所力が息づく町

浜町三丁目東部町会 婦人部長 平賀淳子さん(右から三人目)と婦人部のみなさん



夏休みの朝ともなると、路地からはラジオ体操の音楽と子どもたちの笑い声が聞こえ、浜町三丁目東部町会には昔から変わらぬ夏休みの風景があります。昨年で五十五年目を迎えた町会主催のラジオ体操は、毎朝子どもから高齢者まで五十人近くの人たちが集まりました。

「昨年のラジオ体操は新しく建ったマンションの子どもたちもたくさん来てくれてとてもにぎやかでしたよ。」と、平賀さんは喜びを隠しきれません。婦人部が子どもたちが飽きないようにと催したスイカ割り大会は、子どもたちにとって貴重な夏休みの一ページとなったに違いありません。全国的に少子化などを理由に夏休みの風景からラジオ体操が消えてゆく中で、昔も今も変わらず続けられてきたことは、楽しい場の提供に工夫されてきた婦人部の皆さんの支えがあつてこそいえるでしょう。

そして、そこに集まった子どもたちからコミュニケーションの輪はさらに地域へと広がります。大江戸まつりで「踊りたい」と、子どもたちから声があがった